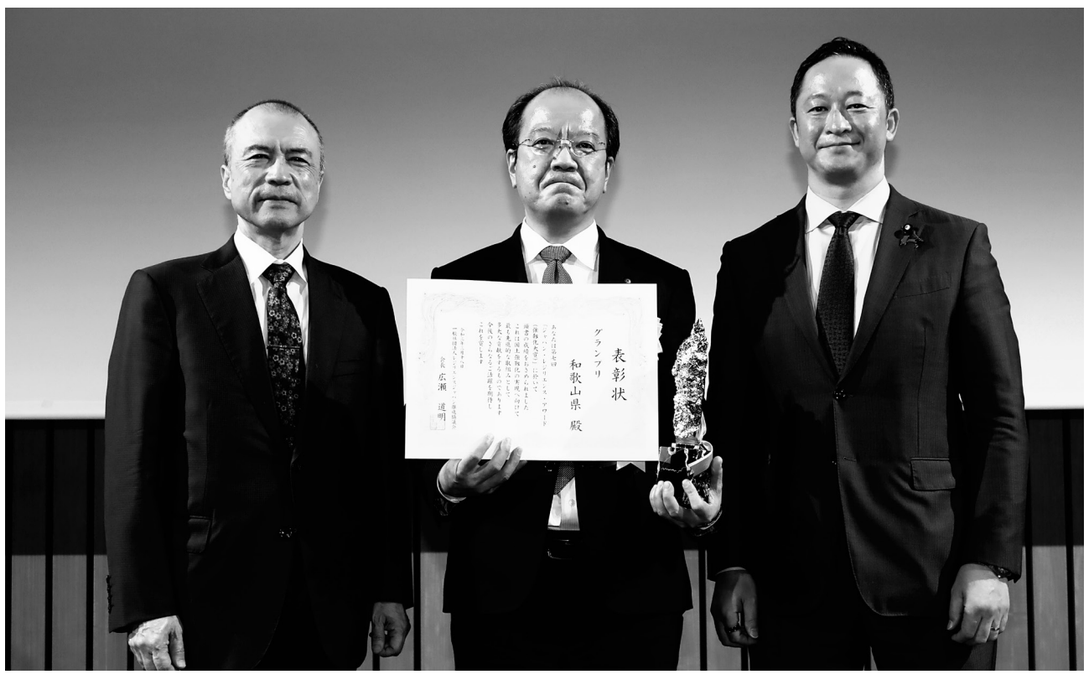
（強靱化大賞）2021 受賞者決定！

広告

ジャパン・レジリエンス・アワード 2021

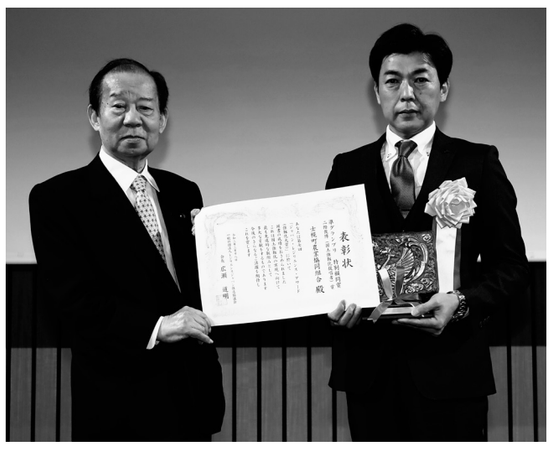
一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会（会長：広瀬道明東京ガス株式会社取締役会長）は、3月18日、東京・赤坂インターシティにて「第7回ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）」の表彰式を開催しました。この賞は、2014年11月に創設されて以来、全国で展開されている次世代に向けたレジリエンス社会構築への取り組みを発掘・評価・表彰してまいりました。2017年には、地域計画策定に工夫して取り組み、地域の国土強靱化を推進している先導的な自治体を表彰する部門賞「国土強靱化地域計画賞」を新設、さらに本年、感染症対策に資する先進的な取り組みを表彰する部門賞「STOP感染症大賞」を新設しました。

グランプリ



和歌山県　「『和歌山県防災ナビ』～スマートフォンアプリを活用した避難促進～」

準グランプリ 二階俊博国土強靱化提唱者賞

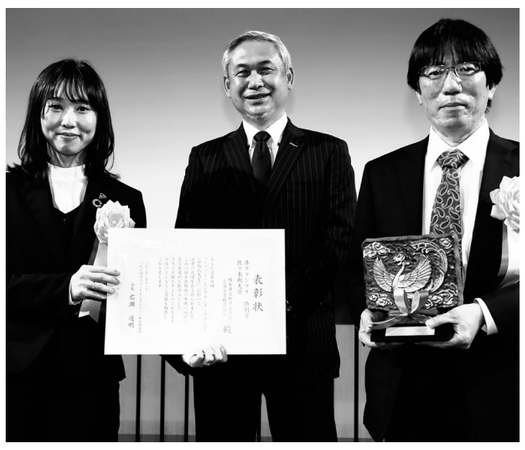


土幌町農業協同組合
「馬鈴薯事業に係わる物流と電力対策」

準グランプリ 古屋圭司初代国土強靱化大臣賞

株式会社フォーラムエイト
「FEM／CAD／Cloud等各種ソフトと連携したVRプラットフォームとインフラデジタルDB統合によるレジリエンス強化」

準グランプリ 佐々木則夫賞



岐阜市立柳津小学校／三承工業株式会社
「感染症対策を含む次世代教育『避難できる庭』プロジェクト」

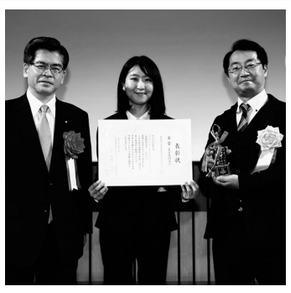
準グランプリ・金賞（企業・産業部門）

株式会社一条工務店
「『耐水害住宅』による“災害後も住み続けられる”住まいと技術の普及」

準グランプリ・金賞（NPO・市民活動部門）

一般社団法人熊本支援チーム
「熊本支援チーム コロナ禍における新しい災害支援」

準グランプリ・金賞（教育機関部門）



関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室
「インクルーシブ防災の輪を広げる防災福祉ラジオ」

最優秀賞

●一般社団法人岐阜レジリエンス協議会 ●旭化成不動産レジデンス株式会社／熊本県熊本市／株式会社ラプロス ●大阪ガスマーケティング株式会社 共同応募：大阪ガス株式会社／アイシン精機株式会社／京セラ株式会社／株式会社ノーリツ／リンナイ株式会社／パーパス株式会社 ●AIG損害保険株式会社 ●三承工業株式会社 ●TAKASUGI株式会社 ●東光鉄工株式会社 ●株式会社富士技研 ●株式会社アネシス ●パナソニック株式会社 ●株式会社LIXIL／福井工業大学 ●緊急災害対応アライアンス SEMA ●株式会社ぐるなび（LIVE JAPAN事務局） ●株式会社クワザワ ●株式会社トッププランニングJAPAN ●ライノジャパン株式会社 ●株式会社INS

優秀賞

●大成建設株式会社 ●旭化成ホームズ株式会社 ●サンヨーホームズ株式会社 ●セコム株式会社 ●国土防災技術株式会社／東亜グラウト工業株式会社 ●株式会社ミヤコー ●株式会社オリエンタルコンサルタンツ ●モビリティ変革コンソーシアム Smart City ワーキンググループ ●サブワーキンググループ ●森松工業株式会社 ●株式会社エスコ ●株式会社サンポール／ユアサ商事株式会社／応用地質株式会社 ●株式会社ネイス

〈ジャパン・レジリエンス・アワード上位賞受賞企業の取り組み紹介〉株式会社フォーラムエイト

FEM/CAD/Cloud等各種ソフトと連携したVRプラットフォームとインフラデジタルDB統合によるレジリエンス強化

（準グランプリ・古屋圭司初代国土強靱化大臣賞受賞）

一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会は、官民が連携した国土強靱化を後押しする活動を展開しています。ここではレジリエンス強化に取り組む先進企業を紹介します。

VRが開く安全安心な未来。土木、交通、都市、そして景観…、最先端の合意形成ツールが強靱なインフラ構築と住民の理解を促進。

土木で培ったノウハウをVRプラットフォームに投入

昨今頻繁に耳にするVR（バーチャル・リアリティ）。コンピュータゲームなどではお馴染みの言葉ですが、この技術が今、国土強靱化に欠かせない存在になっています。

日本における土木設計パッケージソフトのパイオニアカンパニー、株式会社フォーラムエイト（本社：東京都港区港南2－15－1品川インターシティA棟21F）は、多様なVRを具現化するソフト「UC-win/Road」を基軸にして、都市計画から災害対策まで、あらゆる3Dシミュレーションが可能なVRプラットフォームを構築、国土強靱化に大きく貢献しています。

同社は橋梁や道路など、土木分野で長年培ったソフトウェア開発技術と解析支援サービスをベースにして、いち早くVRの活用フィールドを、土木、建築から交通、都市計画、そして景観デザインへと展開。

UC-win/Roadは、FEMソフトや復旧仕様準拠の土木設計計算ソフトをはじめ、BIM、CIM等のCADデータ、そしてクラウドとのシームレスな連携を実現しており、スーパーコンピュータ解析結果の可視化もできるといいます。

津波シミュレーション

道路障害による交通シミュレーション

3Dシミュレーションが公共事業の合意形成を強力に支援

何より注目したいのは、地図や気象など、さまざまなオープンインフラDBとも連携できる点で、これにより都市など大規模スケールの空間を容易に3D化して、津波や土砂崩れ等の自然災害や、交通、景観など、多様なリアルタイムシミュレーションを行うことができます。

こうしたVRの活用は、公共事業をめぐるアカウンタビリティ向上や住民の合意形成を図る上で頼もしい力になります。

同社は3Dの都市モデルを使用した津波解析や避難解析、道路損傷情報の提供や緊急地震速報システムなど、多彩な国土強靱化ソリューションを提供・提案しています。

土木のプロ、ソフトウェア開発のプロだからできる、安全安心な社会インフラづくりへの取り組みが、明日の日本を明るく照らしているといえるでしょう。

UC-win/Road交通安全シミュレータ
（運転シミュレーター型式認定基準に適合した運転教習所向けのドライビングシミュレータ）

鼎談「VRを防災・減災の大きな力に」

今村文彦氏　東北大学 災害科学国際研究所 所長、津波工学研究分野 教授
佐々木則夫氏　十文字女子大副学長、大宮アルディージャTA
伊藤裕二氏　株式会社フォーラムエイト代表取締役社長

災害大国といわれる日本。VRや3Dシミュレーションが防災や減災に果たす役割とは。今村氏、佐々木氏、伊藤氏の三人にお話しいただきました。

佐々木氏、伊藤氏、今村氏（左から）

きっかけはスマトラ島沖地震

伊藤　当社は長年土木分野の設計ソフトを中心に開発してきましたが、VRへの取り組みももう20年以上になります。2000年にVRソフト「UC-win/Road」をリリースしましたが、多様な分野のシミュレーションに使われています。建築や土木構造物を景観の視点で確かめるといった用途にはじまり、自然災害発生時の状況や避難行動、さらには安全運転のシミュレーションなど、今では安全安心のための活用が大きく広がっています。

佐々木　リアルな3D映像でさまざまな事柄を検討できるというのは画期的ですね。サッカーもそうですが、映像を使って教えると選手は短時間で飲み込みます。リアルな感覚を疑似体験で身につけられるVRは、避難訓練など防災教育にも大いに活用できそうです。

伊藤　VRを防災に積極的に役立てようとしたきっかけは、2005年のスマトラ島沖地震でした。津波災害史上最大といわれる被害は甚大で、インドネシアやスリランカ、インドなど犠牲者は23万人以上です。この津波の威力を目の当たりにして、今村先生にアドバイスをいただきながら、津波シミュレーションの研究をはじめました。

日本だからこそ発信できる

今村　世界中で多くの人が自然災害で亡くなっています。地震や津波から住民や地域・インフラをどう守るか。VRが果たす役割はとても大きいと思います。そのための解析やシミュレーションの精度を常に追求していくことが大変重要です。でもそれは土木構造物や設計を知り尽くしていないとなかなかできることではありません。大いに期待しています。

伊藤　東日本大震災では津波で亡くなられた方が大勢いますが、でも「津波は必ず来る」とおっしゃっていた今村先生の震災前の活動のおかげで、随分たくさんの方が助かっていることも事実だと思います。

今村　もっとできたのではないかと、忸怩たる思いもあります。二年ほど前から、防災に関する国際標準化に取り組んでいます。東日本大震災を経験した日本には、世界に発信できるノウハウや情報がたくさんあるはずです。VRを活用した国土強靱化への取り組みも、その一つだと思います。

佐々木　日本に住んでいる以上、誰しも自然災害に無縁ではいられません。不幸にして自分が災害に巻き込まれてしまった時にどうすれば助かるかや、目の前の人をどう助けるかの視点でもVRの活用が進めば、もっとすばらしい国になると思います。

伊藤　ところで当社は、今年11月に愛知、岐阜両県で開催されるFIA世界ラリー選手権（WRC）のタイトルパートナーを務めます。VRは安全運転シミュレータや自動運転の重要な技術で、避難や物流など、国土強靱化にも大いに関係があります。今回ラリーに関わることで、交通をめぐる新しい安全安心にも貢献できればと考えています。

オールジャパンで国土強靱化を
レジリエンスジャパン推進協議会